

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑪ 宮城教育大学附属小

記入日 H21年 1月20日

## 1. 概要

実践団体名	国立大学法人 宮城教育大学附属小学校		
連絡先	022(234)0318		
プランタイトル	99%! 本当にやってくる宮城県沖地震 ～みんなの力で立ち向かえ～		
プランの対象者	小学生(高学年)を中心 (低学年を巻き込んで)	対象とする 災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント!】

- ・第1学年から第6学年までの小学校防災教育の体系的なプログラムを開発・実践し、子どもたち・地域・保護者を巻き込んで防災意識の向上を図る。
- ・開発した小学校防災教育の体系的なプログラムを県内外に広めることにより、防災教育の普及を図る。

### 【プランの概要】

- 緊急地震速報を活用した避難訓練(全校)
- 起震車「ぐらら」での体験的活動の充実(3・6年)
- 防災キャンプ(6年:児童, 保護者, 消防局との連携による避難所宿泊体験訓練)
- 防災マップづくり(3・4年・保護者:学校・地域・登下校防災マップの作成)
- 自宅危険度調査(5年・保護者:家族会議による家庭の防災マップ作成)
- 専門家による特別講義(4・5・6年:東北大学災害制御センターなど)
- 災害に強い街へ(5・6年 仙台市への提言)
- 教材・教具の開発(立体地図, すぐに使える防災バック, 防災マップ)
- 体系化された防災教育の取り組みの普及(リーフレット及び年間指導計画の作成)

### 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・第1学年から第6学年までの6年間を見通した防災教育を系統的に実施することで子どもたちに確かな「防災力」及び「危機回避能力」を身に付けさせることができる。
- ・年間計画を基に実施することで学年間の重複や子どもたちの興味・関心の継続が図られる。
- ・専門家による特別講義により、地震に対しての基礎的な知識を習得するとともに、最先端の科学技術に対する興味関心を高めることができる。
- ・子どもたちの学びを通して、保護者・地域住民への防災意識の向上が期待される。

## 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の吟味</li> <li>・避難訓練実施計画検討</li> <li>・6年防災キャンプ立案</li> <li>・担当委員との連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報を活用した避難訓練実施計画検討(全職員)</li> </ul>	11日 「デジタルなまず」について知ろう 12日 緊急地震速報を活用した避難訓練(全校)
2008年 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年防災キャンプ(保護者打合せ)</li> <li>・6年防災キャンプ(市、消防局、東北大打合せ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年保護者との連携</li> <li>・6年市青葉区役所、仙台市消防局との連携</li> </ul>	19日～20日 6年防災キャンプ(6年) ※東北大学 源栄教授, 仙台市消防局, 仙台市青葉区役所
2008年 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の再検討</li> <li>・4年(今村教授との打合せ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大学災害制御センターとの連携</li> </ul>	※夏期休業, 教育実習期間のため活動無し
2008年 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当委員と授業参観後に今後の方針について検討</li> <li>・3年仙台市消防局との打合せ</li> <li>・リーフレット検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3, 4年立体地図の作成</li> <li>・3年仙台市消防局との連携</li> <li>・5年保護者との連携</li> </ul>	1日 津波がやってくる(4年) ※東北大学 今村教授 24日 岩手・宮城内陸地震の事実を見つめよう(4年 担当 五島先生参観) 29日 地震が起きると(3年) 起震車体験
2008年 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年東北大学佐藤教授との打合せ</li> <li>・3年仙台市青葉消防署との打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大学との連携</li> <li>・3年仙台市青葉消防署との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が起きると, 学校で地震が起きたら(3年)</li> <li>30日 青葉消防署見学(3年)</li> <li>・もし登下校の時地震が起きたら(2年)</li> <li>・過去の地震を知ろう, 地震のメカニズムを知ろう(5年)</li> </ul>
2008年 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年東北福祉大との打合せ</li> <li>・3, 4, 5, 6年防災マップ及びレポート作成についての打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北福祉大学との連携</li> </ul>	15日 地域・家庭を知ろう(5年) ※東北大学 佐藤教授, 仙台市消防局 ※東北福祉大ボランティアとの連携
2008年 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の指導計画について検討</li> <li>・リーフレット原案作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内検討委員会にて次年度の計画について検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしえてなまずくん(1年)</li> <li>・ぼうさいばっくになにを入れよう(2年)</li> <li>・地震に備えて・・・(3年)</li> </ul>
2009年 1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3, 4年防災マップ作りにおいて保護者との連携について計画立案</li> <li>・リーフレット作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット作成準備(2月配布予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マップ作り(3年)</li> <li>・登下校防災マップ作り(4年)</li> <li>・〇〇家の防災計画(5年)</li> <li>・防災レポートをつくろう(6年)</li> </ul>

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑪ 宮城教育大学附属小

## 3. 実践したプランの内容と成果

### 【実践プログラム①】

タイトル	もしも「ぐらっ」ときたら・・・ (全校)
実施月日 (曜日)	平成20年6月12日 (木)
実施場所	宮城教育大学附属小学校 各教室及び校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当・講師 氏 名：遠藤俊哉, 仙台市青葉消防署 所属・役職等：宮城教育大学附属小学校 教諭 仙台市消防局
所要時間または「コマ数×単位時間」	1×45分
プログラムのカテゴリ、形式	行事
活動目的	災害を想定した訓練
達成目標	緊急地震速報を活用し、迅速に待避行動並びに避難行動ができる
実践方法・進め方 (箇条書き、またはフロー)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事前指導「デジタルなまず」について (前日実施)</li> <li>2 訓練放送 (デジタルなまずの訓練モード活用)</li> <li>3 待避行動 (机の下等に入り, 身の安全を確保する)</li> <li>4 避難放送 (全校844名が地震の際の避難経路を活用し校庭に避難)</li> <li>5 青葉消防署職員からの講話</li> </ol>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員</li> <li>・仙台市消防局並びに青葉消防署職員</li> <li>・緊急地震速報システム「デジタルなまず」</li> </ul>
参加人数	890名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】・岩手・宮城内陸地震の際, テレビから流れる緊急地震速報に子どもたちが瞬時に反応し待避行動をとる。(アンケートから)</p> <p>【課題】・保護者への緊急地震速報の周知と授業時間以外での対処方法について今後検討していく必要がある。</p>
成果物	なし

**【実践プログラム②】**

<b>タイトル</b>	津波がやってくる（４年）
<b>実施月日（曜日）</b>	平成２０年９月１日（月）
<b>実施場所</b>	宮城教育大学附属小学校 多目的教室Ⅱ
<b>担当者または講師</b>	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：今村 文彦 所属・役職等：東北大学工学研究科附属災害制御研究センター教授
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	２×４５分
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	総合的な学習の時間，教科学習（社会科），出前授業
<b>活動目的</b>	防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	津波のメカニズムについての理解を深める。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>１ 社会科「海辺の暮らし」（南三陸町）※チリ地震津波について</li> <li>２ これまでに起きた地震と津波について</li> <li>３ 津波による被害について</li> <li>４ 「つなみ博士」を活用した津波のメカニズムについて</li> <li>５ 津波から自分の身をいかにして守るか</li> </ol>
<b>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大学災害制御センター 今村教授</li> <li>・「つなみ博士」（今村教授作成）</li> <li>・プロジェクター</li> </ul>
<b>参加人数</b>	１４４名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	５０００円（講師謝礼）
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】スマトラ地震の際の津波の様子や県内での津波の被害について知り，地震と津波との関連性についての理解を深めた。</p> <p>【課題】仙台市における津波の被害の状況を地域に残る名前などを参考に分かりやすく伝えていく必要がある。</p>
<b>成果物</b>	単元の最終成果物として・・・登下校防災マップ

**【実践プログラム③】**

<b>タイトル</b>	地震が起きると（3年）
<b>実施月日（曜日）</b>	平成20年9月29日（月）
<b>実施場所</b>	宮城教育大学附属小学校 校庭
<b>担当者または講師</b>	担当者・講師等の区分：担当及び講師 氏 名：高橋 心 仙台市青葉消防署署員 所属・役職等：宮城教育大学附属小学校 教諭
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	1×45分
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	その他（体験学習）
<b>活動目的</b>	災害を疑似体験
<b>達成目標</b>	起震車「ぐらら」による体験から地震についての興味をもつ。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 岩手・宮城内陸地震についての被害から地震についての関心を高める。</li> <li>2 仙台青葉消防署の方ら起震車「ぐらら」についての説明</li> <li>3 グループごとに「ぐらら」で地震を体験</li> <li>4 想定される宮城県沖地震の揺れを体験</li> <li>5 緊急地震速報について</li> </ol>
<b>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市青葉消防署</li> <li>・起震車「ぐらら」</li> </ul>
<b>参加人数</b>	142名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	0円
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】「ぐらら」での体験を基に校舎内にいたときに地震が起きたらどのように避難すればいいのかを考えることができた。</p> <p>【課題】子どもたちの地震に対する関心を高めておかないと単なる試乗会になってしまうことが予想される。</p>
<b>成果物</b>	単元の最終成果物として・・・地域防災マップ

**【実践プログラム④】**

<b>タイトル</b>	地域・家庭を知ろう
<b>実施月日（曜日）</b>	平成20年10月29日
<b>実施場所</b>	宮城教育大学附属小学校 体育館
<b>担当者または講師</b>	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：佐藤健，東北福祉大学地域減災センター職員 所属・役職等：東北大学災害制御センター，東北福祉大学
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	4×45
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	イベント，総合的な学習の時間，出前授業
<b>活動目的</b>	遊び・楽しみながらの防災及び防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	防災クイズを行いながら，地震による建物の危険性を知る。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災クイズ（東北福祉大学地域減災センター）</li> <li>2 東北大学災害制御センター 佐藤健先生 講話 「地震危険予知アンテナをもっていますか？」</li> <li>3 アルファー米試食と東北福祉大学のサバ飯試食</li> </ol>
<b>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大学災害制御センター佐藤健</li> <li>・東北福祉大学地域減災センター職員</li> <li>・東北福祉大学ボランティア</li> <li>・アルファー米</li> </ul>
<b>参加人数</b>	290名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	0円
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】地震による建物への影響を室内・室外の両側面からみることで子どもたちの危険予知能力の向上が見られた。</p> <p>【課題】試食における衛生面の確保と試食対象者に配慮した献立の開発を今後行うことが必要である。</p>
<b>成果物</b>	単元の最終成果物として・・・家庭防災マップ

**【実践プログラム⑤】**

タイトル	よりよい仙台にするために（6年）
実施月日（曜日）	平成20年7月19～20日（土・日）
実施場所	宮城教育大学附属小学校 教室・多目的教室Ⅱ・体育館・校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者，講師 氏 名：永野孝雄，第6学年PTA委員長，源栄正人 所属・役職等：本校教諭，東北大学災害制御センター教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	6×45
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間，出前授業，ワークショップ
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	宮城県沖地震に対する備えや発生後の生活について考える
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1 「緊急地震速報について」 ※東北大学災害制御センター教授 源栄正人教授 2 地震がきてもこれさえ知っていれば大丈夫 ①起震車「倉ら」体験 ②応急処置の仕方体験 ③濃煙体験 ④消火体験 ※仙台市消防局及び青葉消防署 3 防災キャンプ ①アルファー米による食事 ②宿泊訓練
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・東北大学災害制御センター教授源栄正人教授 ・仙台市消防局及び青葉消防署，仙台市青葉区役所 ・第6学年全保護者 ・アルファー米，缶詰，水，段ボール，寝具類
参加人数	290名
経費の総額・内訳概要	65,000円（アルファー米，パン，缶詰など食事，講師謝礼）
成果と課題	【成果】避難所生活において，子どもたちに実際に体験させることで地震の前に備えておく必要がある物を理解させることができたとともに，コミュニケーションの大切さを考えさせることができた。 【課題】季節ごとに寝具類で必要な物が違ってくる。
成果物	単元最終成果物として・・・冊子




**【実践プログラム⑥】**

<b>タイトル</b>	おしえてなまずくん（1年）
<b>実施月日（曜日）</b>	平成20年12月18日（木）
<b>実施場所</b>	宮城教育大学附属小学校 教室
<b>担当者または講師</b>	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：佐藤浩一 所属・役職等：本校教諭
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	1×45
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	教科学習
<b>活動目的</b>	防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	学校の防災備蓄倉庫の存在を再確認するとともに、緊急地震速報についての知識を深める。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 デジタルなまずって何だろう</li> <li>2 どのように避難したら いいのかな</li> <li>3 避難訓練をしてみよう</li> <li>4 校庭にある倉庫には なにが入っているの？</li> </ol>
<b>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫</li> </ul>
<b>参加人数</b>	36名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	0円
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】 普段見慣れている校庭。その片隅にある防災倉庫の中に興味をもち、どんな物が用意されているのかを知る。</p> <p>【課題】 防災倉庫の設置者との連携に課題を残した。</p>
<b>成果物</b>	なし





**【実践プログラム⑦】**

<b>タイトル</b>	防災マップ（学校周辺・登下校中・家庭）3～5年
<b>実施月日（曜日）</b>	平成20年10月～平成21年2月（現在進行中）
<b>実施場所</b>	宮城教育大学附属小学校
<b>担当者または講師</b>	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：遠藤俊哉（代表） 所属・役職等：本校教諭
<b>所要時間または「コマ数×単位時間」</b>	5×45
<b>プログラムのカテゴリ、形式</b>	総合的な学習の時間
<b>活動目的</b>	防災に関する知識を深める
<b>達成目標</b>	これまでに学習してきたことを基に防災マップ（家庭・地域・登下校中）を作成することで学習をさらに深める。
<b>実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 防災マップの作り方を知ろう</li> <li>2 自分の防災マップをつくろう</li> <li>3 家庭・地域・通学路の危険度調査をしよう</li> <li>4 地震がきても安心できるようにしよう</li> </ol> 
<b>準備、使用したもの・人材・道具、材料等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の地図</li> <li>・危険度調査練習プリント</li> <li>・ラミネーター</li> </ul>
<b>参加人数</b>	432名
<b>経費の総額・内訳概要</b>	30,000円（ラミネーター代）
<b>成果と課題</b>	<p>【成果】1年間の学習の成果として、防災マップ作りを行わせることで学習したことを生活の中で生かそうとする態度が見られた。</p> <p>【課題】公共機関（地下鉄・JR・バス）との連携を今後考えていく必要がある。</p>
<b>成果物</b>	防災マップ

#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦) 全学年の指導計画を作成したことで、学年間の調整及び子どもたちの発達段階と単元の内容との調整に時間がかかった。</p> <p>(苦) それぞれの学年で行いたい内容に重複が見られたため、調整に苦勞した。</p> <p>(苦) 外部講師を取り入れたことで専門的な知識を子どもたちに理解させることができたが、講師との時間調整に苦勞した。</p> <p>(工) 子どもたちの発達段階に即した年間の指導計画を全学年そろえたことで「防災力」の継続的な向上が期待されるようになった。</p> <p>(工) 5・6年の活動については、学年 PTA 行事と連携させて行うことにより、子どもたちだけでなく保護者にも防災意識をもたせるようにした。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦) 行政機関との連携を行うため打合せを行ったが、年度内から話し合いが始まったため予算措置が行政側からはできなかった。</p> <p>(苦) 校内行事と消防局などの行事が重なり、チャレンジプラン実施日に対応できないこともあり、実施日の変更を余儀なくされた。</p> <p>(工) 他の防災チャレンジプラン（東北福祉大学）との連携を取り入れたことで本校の実践にとっても、福祉大にとっても有効な時間を確保することができた。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦) 全校の子どもたちを対象にしているため担任の防災に対する意識によって取り組みに差が出てきてしまった。</p> <p>(苦) 5・6年の実践のように保護者も参加させることで防災意識の向上が図れるが、実施日における保護者の参加意識をどのようにして向上させていくかが苦勞した。</p> <p>(苦) 防災についての単なる学習に終始するのではなく、学校教育として他教科との連携を意図して実施する必要がある。</p> <p>(工) 約30年前の宮城県沖地震発生日に合わせ避難訓練を実施していたが、その行事を新たに見直し、緊急地震速報を活用させながらの訓練に変更し年度初めに全校児童850名の防災意識の向上を図った。</p> <p>(工) 学年間の防災意識の差を、互いの授業を見合う形でその差をなくすよう実践していった。</p> <p>(工) 各学年ごとに1年を見通した実践をおこなうことができた。</p>

**5. 他の団体、地域との連携**

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県教育委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画作成面での協力</li> </ul>
保護者・ PTAの組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城教育大学附属小学校PTA</li> <li>・宮城教育大学附属小学校 いずみ講演会</li> <li>・第5・6学年保護者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA新聞での広報</li> <li>・予算面での協力</li> <li>・学習への直接参加</li> </ul>
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の生活地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災マップ作り</li> </ul>
国・地方公共団体・ 公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台市青葉区役所</li> <li>・仙台市消防局</li> <li>・東北大学災害制御センター</li> <li>・東北福祉大学地域減災センター</li> <li>・宮城教育大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動面での協力</li> <li>・学習連携</li> <li>・学習連携</li> <li>・学習連携</li> <li>・理論面での協力</li> </ul>
企業・ 産業関連の組合等	なし	
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北福祉大学地域減災センター学生ボランティア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サバ飯づくり</li> <li>・防災クイズ</li> </ul>
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<b>成果として 得たこと</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の全学年を通じた防災教育の実施により、子どもたちの「防災力」の向上がはっきりとした形で出てきている。特に、小さな地震が起きた際も自分から身を守るために瞬時に身を守る行動ができるようになった。また、普段から地震に対しての話題が出るなど常に地震に対応しようとする心構えができつつある。</li> <li>○年間指導計画の作成により、学年間での重複や系統的な指導を行うことができるようになった。</li> <li>○単に防災にとどまることなく、防災から仙台という地域を見直すことができた。仙台市がどのように宮城県沖地震に取り組んでいるのか、自分たちはどのように行動すればいいのかなど地震＝怖いという単なるイメージからより具体的な思考ができ、防災力を身に付けることができた。リーフレットを作成し、成果を全県に普及させる予定である。（2月公開時に）</li> <li>○宮城県教育委員会の防災教育の指針において小学校段階の具体的な実践例として掲載され、全県の公立学校の防災力向上の一翼を担うことができた。</li> </ul>
<b>全体の反省・ 感想・課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本実践における具体的な成果物は、「子どもたち」と「保護者」である。年間を通じた実践により、防災意識の向上が見られるようになった「子どもたち」「保護者」がいることで、今後予想される宮城県沖地震で自助・共助の力が発揮されるのではないかと考えている。</li> <li>○実践をおこないながら、修正を加えていったことでよりよい実践を提供することができた。しかしながら、本実践は、まだ研究が始まった段階であると考え。そこで、今後も継続しながらよりよい実践を開発していく必要があると考える。</li> <li>○現在、学校教育では、教科による学力向上が話題の中心となっている。そこで、教科で得た力を防災教育の中でしっかりと生かしていけるような防災教育を今後計画していく必要があると考える。</li> </ul>
<b>今後の 継続予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度作成した指導計画を基にさらに、次年度以降教科学習との関連性を取り入れながら実施していきたいと考えている。</li> <li>○防災キャンプの取り組みは、非常に有効であった。また、子どもたちが水も電気も付かない校舎で協力し合いながら生活することで本当に避難所生活を疑似体験することができた。さらに、活動を通して人と人との結びつきをも学ぶことができたことはすばらしいことであった。</li> <li>○来年度初め宮城県では、「防災教育の指針」が更新される予定である。小学校における防災教育の実践例として本校の今回の取り組みが掲載される予定であるが、このことによって全県の公立小学校で本実践が追試されることでよりよい実践になることを期待している。</li> </ul>

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄 ①

【本校で作成した、第1学年から第6学年までの防災教育指導計画】（一部抜粋）

防災教育の目標

（低学年）「自分の生活環境に慣れ、体験を通じて生きる力を養う」（生活科・特別活動等）

（中学年）「文化、環境、福祉とのかかわりの中で災害に備える態度を養う」

（高学年）「自然災害の起こる仕組みを学習し、防災の社会システムや予測し減災できる科学の力を学び、子どもたちに自信と夢をもたせる」

平成20年度 第1学年（もくせい学年）

「じしんかきたら」活動計画案（4時間扱い）

【単元のねらい】

課題を発見する力	身近な対象に興味をもち、たくさんのことを発見する。
課題を追求する力	対象に見る、触る、嗅ぐなどの諸感覚を通してかかわり、気付く。
コミュニケーション力	友達、教師、家族など、身近な人とかかわりながら、活動を楽しむ。
情報を収集する力	活動に必要なものに気付き、自分で準備しようとする。
情報を発信する力	自分の意見を伝え、友達の考えを聞くことがしっかりできる。 分かったことや気付いたことを、絵や文、劇など、自分の好きな方法で表現する。

【単元活動計画】

月	活動名	時	主な学習内容 ※留意点等	形態	具体的な評価	他教科との関連
6	もしも「ぐらっ」ときたら… (避難訓練・行事)	1	○30年前に起きた宮城県沖地震について知る。 ○訓練を通して地震が来た時に気を付けることや避難の方法について知る。 ○日常生活の中で地震に対する心構えをもつ。	学級 一斉 (全校)	*過去に起こった地震について聞いたことや、実際の避難の方法を知ることから、地震に対する意識を高めることができたか。	・学級活動
		7	○校庭の奥にある防災倉庫の存在に気付く。	学級		

---

平成20年度 第2学年（さくら学年）

『ぼうさいバックをつくろう』活動計画案（4時間扱い）

【単元のねらい】

課題を発見する力	身近な対象に興味をもち、たくさんのことを発見する。
課題を追求する力	対象に見る、触る、嗅ぐなどの諸感覚を通してかかわり、気付く。
コミュニケーション力	友達、教師、家族など、身近な人とかかわりながら、活動を楽しむ。
情報を収集する力	活動に必要なものに気付き、自分で準備しようとする。
情報を発信する力	自分の意見を伝え、友達の考えを聞くことがしっかりできる。 分かったことや気付いたことを、絵や文、劇など、自分の好きな方法で表現する。

【単元活動計画】

月	活動名	時	主な学習内容 ※留意点など	形態	具体的な評価	他教科との関連
9	もしも「ぐらっ」ときたら… (避難訓練・行事)	1	○これまでの地震の被害について知る。 ○宮城県沖地震、阪神大震災のことについて保護者から聞いてきたことを発表し合う。	学級	*過去に起こった地震について聞いたことや、実際の避難の方法を知ることから、	・生活科

---

平成20年度 第3学年（あすなろ学年）

いずみタイム 「わたしたちの防災」活動計画案（32時間扱い）

【単元のねらい】

課題を発見する力	自分たちの命を守る防災について分からないことなどを整理し、自分で課題を設定することができる。
課題を追求する力	防災に関する疑問をよりよい方法で調べて解決するとともに、得られた結果をまとめることができる。
コミュニケーション力	体験活動や人とかかわりを通して情報を収集したり、友達と協力して活動に取り組み、互いに意見を交流させたりしながら防災について考えることができる。
情報を収集する力	目的や課題に応じて有効な方法を選択したり組み合わせたりして調べ、防災に関する情報を調査・収集することができる。
情報を発信する力	自分たちで調べたことをまとめ、さまざまな方法で効果的に相手に伝えることができる。

【単元活動計画】

月	活動名	時	主な学習内容 ※留意点等	形態	具体的な評価	他教科との関連
	地震が起きると・・・	1	○これまでの地震の被害等を振り返る。 ○30年前に起きた宮城県沖地震について知る。 ○地震による被害の大きさ、地震の怖さを写真や映像などから感じ取る。	一斉 (学年)	*過去に起きた地震を振り返ったり、実際に地震の揺れを体験したりすることを通して、地震に対する意識を高めることができたか。	・学級活動 ・社会科
		2	○起震車に乗って、地震の揺れの大きさ、その怖さなどを体感する。	一斉 (学年)		
		2	○仙台市防災アドバイザーの話を聞き、宮城県沖地震が迫っていることを知る。 ○日常生活の中で地震に対する心構えをもつ。	一斉 (学年)		



## 7. 自由記述欄 ②

※自由記述欄①からの継続

平成20年度 第4学年 (ほぶら学年)  
いずみタイム「仙台に生きるわたしたち『今わたしたちにできること』(防災)」活動計画書 (30時間扱い)

**【単元のわらい】**

課題を見える力	地震災害に対する問題について気付き、自ら課題を設定することができる。
課題を追求する力	宮城県沖地震などの巨大地震が発生した場合の災害についても基礎的な知識等を調べ、自らの課題の解決に活用するとともに、得られた結果を基に自らの命を守るための方法を考える。
コミュニケーション力	体験活動や人とのかかわりを通じて情報を収集したり、友達と協力したりして取り組み、互いに意見を交流させながら災害について考えることができる。
情報を収集する力	課題に対して専門家・インターネット・聞き取り調査などの有効な方法を選択したり組み合わせたりして調べ、地震や地震災害に関する情報を調査・収集することができる。
情報を発信する力	地震災害に関する経験や知識を生かして自分たちが

**【単元活動計画】**

月	活動名	時数	主な活動内容※留意点等
6	○「デジタルなまず」について知る	1	○緊急地震速報システムについての基礎知識を知り、速報が伝わったときによいのかを考える。
	○地震が起きたら(緊急地震速報を活用した避難訓練)	1	○緊急地震速報を活用しながら、宮城県が発生した場合の避難の仕方等を学ぶ。
	○津波がやってくる	1	○「三陸津波」の実態を知り、津波への関心をもつ。
7		2	○外部講師(東北大学今村教授)を招いてのメカニズムと対策の方法を知る。

平成20年度 第5学年 (たんぽろ学年)  
いずみタイムの「わたしたちにできることⅡ(防災学習を通して)」活動計画書

**【単元のわらい】**

課題を見える力	地震災害から起きる首尾の問題について気付き、自ら課題を設定することができる。
課題を追求する力	知識や地震災害に対する課題に主体的に働きかけ、よりよい方法で解決するとともに、得られた結果を考察し定まることができる。
コミュニケーション力	体験活動や人とのかかわりをとおして情報を収集したり、友達と協力して活動に取り組み、互いに意見を交流させたりしながら地震や地震災害について考えることができる。
情報を収集する力	目的や課題に応じて有効な方法を選択したり組み合わせたりして調べ、地震や地震災害に関する情報を調査・収集することができる。
情報を発信する力	地震や地震災害に関する経験や知識を生かして、自分たちができる防災法や活動内容を考え、それを効果的に相手に伝えることができる。

**【単元活動計画】**

月	活動名	時	主な学習内容	形 態	具体的な評価	他教科との関連
10	過去の災害を振り返る	2	○過去の災害VTRなども活用しながら、宮城県、仙台市の地震とその災害について知る。	個人(学級)	○過去の地震について興味を持ち、調べていくこととする意欲を持つことができたか。	・学級活動 ・特別活動
	過去の災害を振り返る		○地震とその被害について学び、自身の生活への危機感をもつ。	個人(学級)	○地震のメカニズムについての疑問を持ち、進んで調べていくこととする意欲を持つことができたか。	・理科 ・社会

平成20年度 第6学年 (けやき学年)  
いずみタイムの「よりよい仙台にするために(防災)」活動計画書

**【単元のわらい】**

課題を見える力	仙台の防災に興味を持ち、自ら課題を設定できる。
課題を追求する力	課題に対して主体的に働きかけ、よりよい方法で解決するとともに、得られた結果を考察し定まることができる。
コミュニケーション力	体験活動や人とのかかわりをとおして情報を収集したり、友達と協力して活動に取り組み、互いに意見を交流させたりしながら課題について考えることができる。
情報を収集する力	目的や課題に応じて有効な方法を選択したり組み合わせたりして調べ、仙台の防災に関する情報を調査・収集できる。
情報を発信する力	仙台の防災について自分ができることについて効果的に相手に伝えることができる。

**【単元活動計画】**

月	活動名	時	主な学習内容	留意点等	形 態	具体的な評価	他教科との関連
7	防災について考えよう	1	○これまでの地震の被害や避難所生活のようすから防災に対する意識や知識の深さを知り、		一斉(学年)	○過去の地震の被害状況から、防災についての関心をもつことができたか。	・学級活動 ・特別活動
		2	○前時の学習から、間もなく起こると予想される宮城県沖地震の時の対応を考える。		一斉(学年)		
		3	○避難所生活について必要な物や心構えについて考える。		一斉(学級)	○宮城県沖地震に対する備えを考え、避難所での生活の仕方や過ごし方について知る。	・理科 ・社会

(専門家による講義)

4年 今村文彦教授    5年 佐藤健教授    6年 源栄正人教授



(今村)



(源栄)



(佐藤)

7. 自由記述欄 ③

(保護者との防災意識の向上)



(救急処置を学ぶ親子)

(濃煙体験をする親子)



(地震の知識を学ぶ親子)

(防災カルタで学ぶ)

【防災キャンプ】※教室で1日を過ごす

